Codex Astra × Image2.5

最新ナレッジ勉強会

PC操作、LP制作、動画編集。
実例を見ながら、設定と頼み方を紹介します。





石綿文太
株式会社AX

Astraの**使用量リセット2回分**を使って検証。
ぶんた本人の使用体験です。

ぶんたが実際に試したことと、制作した画像・動画・ページを紹介します。

できるようになったことを、
3つ見せます。



01 PC・ブラウザ操作

画面を見て、代わりに操作する。



02 LP制作・修正

見本から作って、気になる所を直す。



03 動画編集

字幕やBGMをつけて、動画を仕上げる。

実際の操作録画と制作物です。LP制作・修正は、同じ商品の2つの画面で見せます。

01

ブラウザの操作も、任せられる。

商品を選ぶ、数量を変える。
操作後の画面まで確認する。



通常サイズを選択 → 数量変更 → 確認 → 選び直し → 結果確認

実際のブラウザ操作を録画。15秒・早送りなし。架空商品のデモで、購入はしていません。

02

見本を渡して、LPを作ってもらう。

文章も画像も、
商品を選ぶボタンも作れる。

最初の画像に戻る ↙

20 枚の画像をつないだ長いLP。



実際に作ったBENIのLP。架空商品です。画像の生成・つなぎ合わせ・修正・ページ作成を経ています。

作った画像の、
ここだけ直せる。

「右の小さい容器だけ消して。」

実際の修正依頼を短くしたもの

大きい容器や文字は残して、
小さい容器を消しました。

修正後



同じBENI画像の、本当の修正前後です。小さい容器を削除。ほかの部分にも細かな違いはあります。

動画編集も、言葉で頼める。

「BGMをつけて、
画面がポンポン変わる
感じにして。」

実際に伝えた修正内容の要約

ここを見てください **字幕** **BGM** **画面の切り替え**



Codexから、映像や音声のツールも使って制作。
見本を渡し、できた動画を見ながら修正しています。

MIZUの実際の完成動画。架空商品・16.5秒。映像・声・音楽には、画像生成とは別のツールも使っています。

ここからは、この4つです。

01	Codexの設定・頼み方	設定を見直して、短く頼む
02	どんな依頼で、何ができた？	サイト改善・資料・LP・動画
03	Image 2.5の使い方	モデル・画像のつなぎ方・料金
04	まとめ・質問	変わったことと、仕事への活かし方

本編50分＋質問10分。章の変わり目で、次に何を話すかを確認します。

まず、Codexの設定を見直す。

01

指示・Skill・メモリを整える。
モデルを使い分け、見本を渡して短く頼む。

01　設定・頼み方
02　具体的な依頼と結果
03　Image 2.5
04　まとめ・質問

ここからは、設定と頼み方の話です。

Astraは、頼んだことを
より細かく守れる。

指示追従能力の向上

長い依頼でも、

条件や注意点を拾って動く。

たとえば

「ここは残す」

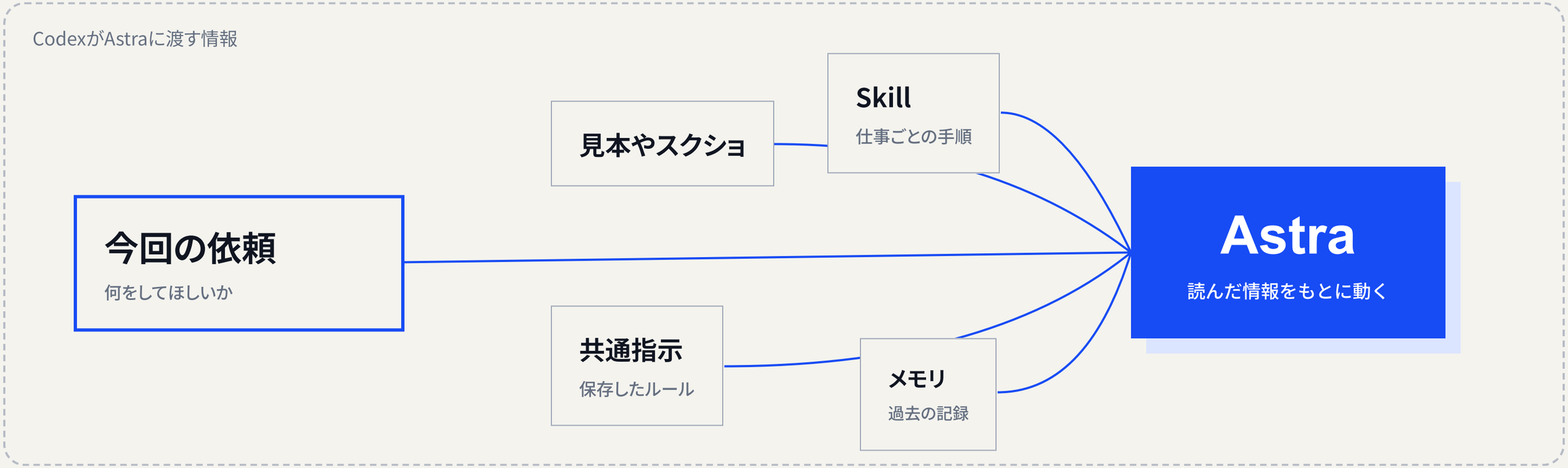
「ここだけ変える」

だからこそ　**前に入れたルールも、今まで以上に効く。**

次に、Astraへ何が渡っているかを見てみます。

OpenAIのAstra公式ガイド：長い指示に従う力が向上。一方、読み込んだ情報や矛盾した指示の影響も受けやすいと説明されています。

いまの依頼だけでなく、
前に渡した指示も見ている。



変な動きをしたら、**前に入れた指示も確認する。**

その仕事で読み込んだ情報が対象です。過去の会話を毎回すべて読む、という意味ではありません。

指示をよく守るから、
古いルールにも従ってしまう。

いま頼みたいこと

「見出しを1行だけ直して」

どんな仕事も、複数のAIに分担させる

作業する前に、毎回ユーザーに確認する

前にやった手順を、必ずもう一度使う

1行直したいだけなのに、

余計な作業が増える。

OpenAIのAstra公式ガイドと、ぶんたの使用体験をもとに説明。画面の指示は説明用の例です。

昔の設定が、邪魔になることもある。

01 小さな作業でも分担する

他のAIへの説明や、結果をまとめる作業が増える。

02 同じ許可を何度も聞く

さっき「やっていい」と伝えたのに、また止まる。

03 失敗したやり方に戻る

前にうまくいかなかった方法を、また試してしまう。

こんな時は　モデルを疑う前に、設定を見直してみる。

ぶんたが使う中で気になった動きの例です。すべての環境で起きる、という話ではありません。

見直すのは、この3つ。

01 指示

もう使わないルールを外す。

同じ指示の繰り返しや、食い違いを整理する。

02 Skill

今の仕事に合う手順だけ使う。

必要ない確認や分担まで、毎回させない。

03 メモリ

昔の記録を、そのまま命令にしない。

以前の許可や、うまくいかなかった方法を引き継がせない。

商品情報・保存先・触っていい範囲など、必要な情報は残します。全部消す必要はありません。

僕は普段、AIを分担させません。

ひとつの会話で、最後までやってもらいます。

いつもの使い方　依頼する → **同じAIが、最後まで作業する** → できあがり

分担させるとき　**仕事を説明** → 作業A / 作業B / 作業C → **結果をまとめる**

他のAIにも説明が必要。
最後に、結果をまとめる手間もある。

別のAIにチェックしてほしいときなど、必要なら分担も使う。

ぶんた個人の使い方です。Astraで分担すると必ず悪くなる、という意味ではありません。

実際に見直したポイント　記事の設定例も、自分の環境に合わせて確認しました。

3つを開くと、見直す所はこんなにある。

01 指示

- 重複したルール
- 食い違う優先順位
- 同じ許可の聞き直し
- 細かい手順の決めすぎ
- 形式だけの中間報告
- 完成後も続く確認

02 Skill・自動処理

- 何でも分担する設定
- 別モデルへの自動引き継ぎ
- 単語だけで始まるSkill
- 毎回重なる文体の助言
- 不要な接続追加の案内
- 必要なチェックの消しすぎ

03 メモリ・過去ログ

- 昔の指示を再実行
- 古い許可の流用
- 失敗した方法の繰り返し
- 毎回すべての履歴を検索
- 昔の数値・設定を信用
- 今の保存先・正本の取り違え

実ファイルの設定も

```
multi_agent = false
skill_mcp_dependency_install = false
approvals_reviewer = "user"
model_reasoning_summary = "concise"
```

一つずつ探して直すのは、**結構大変。**

配布v1.2の確認項目から抜粋。全員が全部を書き換えるわけではありません。必要な権限・安全確認は残します。conciseは表示用の要約で、思考量の削減ではありません。

このファイルで、設定をまとめて見直せます。



ファイルをCodexに添付して、こう頼む

このファイルに沿って、設定を見直して。
必要な設定は残して、
何を変えたか教えて。

ファイルを添付 → 見直しを頼む → 変更を確認

ファイルを添付して、設定の見直しを頼んでください。何を変更したか確認してから使います。

ただ、全部Astraだと使用量が重い。

余計な分担

同じ調査

長い往復

こう伝えて、不要な作業を減らす

必要な情報だけ確認して。
同じ調査や確認を繰り返さず、
必要な作業は最後まで進めて。

そのうえで、**仕事に合わせてモデルを選ぶ。**

ぶんた本人の使用体験。依頼文は使い方の例で、削減率は未計測です。必要な確認を省いたり、作業を途中で止めるための指示ではありません。

だから僕は普段、Lunaの「中」。

普段の仕事

GPT-5.6

Luna

考える量（effort）

中 / medium

調べもの、資料づくり、文章やページの修正。



指示・Skill・メモリを見直しておけば、
僕の普段の仕事は、Lunaの「中」でかなりできます。

大きい・難しい仕事

Astra

大きなシステムの開発。
何を作るかから考える難しい仕事。

使用量が大きいので、仕事に合わせて使い分け。

ぶんた本人の使い分けです。どんな仕事でもLunaで十分、という意味ではありません。

設定が整ったら、次は「どう頼むか」。

短い指示だけで、全部伝わるわけではない。

欲しいもの
何を作りたい？

＋

材料
見本・素材

＋

条件
何を守る？

ここが揃うと、**細かな作り方まで任せやすい。**

短い指示が通じるのは、目的と必要な材料が伝わっているからです。新しい会話では、見本や条件を改めて渡します。

スクショ・
リファレンスを渡す。

何を作るか ＋ **見本** ＋ **直したいところ**



見本のLP



直す箇所

この雰囲気で、別商品のページを作って。

料金と商品情報は、添付の資料に合わせて。

見本・商品情報・直したい場所。**必要なものを一緒に渡す。**

依頼文は説明用の例です。リファレンス＝仕上がりの参考。必要な商品情報や、守ってほしい条件も一緒に渡します。

どんな依頼で、何ができた？

02

サイトの改善、この資料、LP、動画、朝の準備。
「頼んだこと」と「できたもの」を一緒に見ます。

01　設定・頼み方
02　具体的な依頼と結果
03　Image 2.5
04　まとめ・質問

ここからは、実際の依頼と制作物をセットで見ます。初稿の後に追加指示・確認・修正を経た事例です。

「サイトのLLMOを改善したい」を、まとめて任せる。

実際の初回依頼から抜粋

うちのAX Inc.のサイトで
まだできることがあるのかを
完全に調査して洗い出し、
できることをすべてやってほしいです。

参考記事も一緒に渡しています。

調べるだけで終わらず、修正まで。

01 診断項目を作り、
サイト全体を調べる

02 サイトマップを復旧。
49記事のリンクも修正

03 関連する改善作業で、
LLMO記事の文章・表も直す

「調べる・判断する・直す」が重なる、**大きめの仕事で使う。**

変更内容まとめを開く ↗

9/8–9のAX自社サイト改善。複数の関連会話と追加指示・確認を経た結果です。検索順位やAI推薦の改善効果は未計測です。

その一つが、記事の文章や表の修正。

内容を調べ、改善案を確認してから本文へ。 サイト全体の改善から、個別の記事まで

修正前　文章で長く説明

LLMOとSEOの決定的な違いと今後の関係性

LLMOとSEOは、どちらもWebサイトへのアクセスや認知度を高めるための最適化施策ですが、その対象と目的には決定的な違いがあります。SEOが検索エンジンを対象とするのに対し、LLMOは**生成AI（大規模言語モデル）を対象**とします。この違いを理解することが、これからのWeb戦略を考える上で極めて重要です。

目的においても、SEOは検索結果で上位表示させてクリックを獲得し、自社サイトへユーザーを誘導することを目指します。一方でLLMOは、AIが生成する回答の中で自社の情報が引用・推奨されることで、**ユーザーの意思決定に直接影響を与えること**を目的とします。両者は対立するものではなく、相互に補完し合う関係にあると言えるでしょう。

修正後　確認することを表に整理

SEOとLLMOはどう関係するのか

SEOは、検索を通じて必要な人に情報を届けるための取り組みです。Google検索では、AIによる概要やAIモードも検索体験の一部に含まれます。Googleは、生成AI検索への対応もSEOの範囲として説明しています。GoogleのAI最適化ガイド

実務では、検索全体の成果を追いながら、AIの回答でどのように紹介されるかも観測すると整理しやすくなります。

見るもの	確認する内容	判断上の注意
検索全体	表示回数、クリック数、検索語句、掲載順位	検索意図や端末の違いも見る
Googleの生成AI機能	専用レポートの表示回数	サイトへのクリックや問い合わせとは別の指標
対話型AIの回答	自社への言及、出典URL、説明の正確さ	質問・日時・設定で回答が変わる
サイト訪問後	資料請求や相談などの行動	計測設定と有効な問い合わせかどうかを確かめる

調べる → 書き直す → 表示を確認する　表を大きく見る ↗

実際の記事 ↗

AX自社記事の実例。保存した本文を同じ書式で表示。記事の修正例であり、検索順位の改善実績ではありません。

このスライドも、前日の依頼から。

実際に送った依頼から抜粋

「明日astraとimage2.5の
勉強会やらないとらしいよ。」

「見てる人があっと驚きつつ
超わかりやすく、要点を理解できる
ような内容で構成まず考えて」

その後、「OKよろしくつくって!」



実際の資料を拡大 ↗

話した内容から構成 → 実画像・動画
→ 動きをつける → 見ながら直す。

この会話から依頼文を抜粋。右は実際の資料のスクリーンショットです。細かな要望・修正も追加しており、1回で完成した例ではありません。

LPも、見本と「作りたいもの」を渡す。

実際の再制作の依頼から抜粋

さっき送ったLPたちを完全に理解した上で、
また別のモノでつくってほしいな。赤い系。

読み取ってほしいのは、
構成とかセールスライティングの型。

見本の内容をコピーするのではなく、
伝える順番や売り方を参考にしています。



完成したBENIのLP

見本を読む → 別商品の文章・画像 → **つなぎ目や細部を直す。**

9/9の実際の依頼を抜粋し、表記を整形。参考LPをすでに渡していた同じ会話です。BENIは架空商品。生成後の修正・接続処理も含みます。

では、できたLPを 上から 見てみます。

→ を押すと、少しずつ下へ。
画像の上でスクロールもできます。

0%　LPの冒頭

冒頭へ戻る ↑　制作・検証まとめ ↗

最後まで進んだら、次のスライドへ。
Page Downなら、途中でも次へ進めます。



BENIの実際の完成画像です。20枚の画像を接続した長いLP。ここでは動画・購入操作を含まない画像版を表示しています。

実例4　冒頭の動画も、こんなやり取りで作りました。

動画も、見本をもとに短く頼んで直す。

まず、別の商品版を頼む

「全く違うやつもつくってほしい。
オールインワンジェルとか」

できた動画を見て、修正する

「もっとUGC風に。BGMを付けて、
画面がポンポン変わる感じに。」

UGC風＝使っている人が紹介するような雰囲気。

素材づくり　読み上げ　字幕　BGM　カット編集



MIZUの実例。制作依頼は抜粋、修正依頼は複数発言の要約。同じ会話に参考動画があり、映像・声・音楽の別ツールも使っています。

寝る前に頼んで、
朝は、判断から。

頼み方の例

明日の朝、すぐ仕事を始められるように準備して。
予定と資料を確認して、
会議メモと判断事項をまとめて。

01　前回の経緯を読んだ、**会議の準備メモ**

02　朝に確認する、**予定と判断事項**

03　そのまま開いて使う、**撮影用の台本**



7つの詳細メモ、11の表、8章の撮影台本まで。

朝の準備デモを開く ↗

Astraで実行した朝の準備を、公開用に匿名化した実例。依頼文は説明用の例。

Image 2.5で、画像づくりはどう変わる？

03

続きを描く。見た目を揃えてコマを作る。
その使い方と、Flare・Sunburst・料金の話です。

01　設定・頼み方
02　具体的な依頼と結果
03　Image 2.5
04　まとめ・質問

ここからは、Image 2.5で注目した変化と、その使い方を実際の画像で見ていきます。

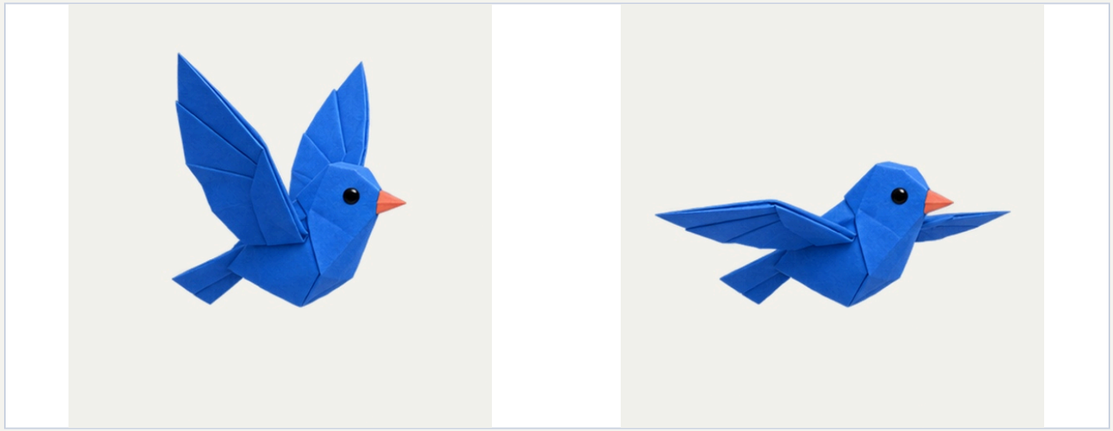
1枚で終わらず、つなげて使える。

01 前の画像をもとに、続きを作る。



→ 境目のつながる、長いLP。

02 見た目を揃えて、別のコマを作る。



→ パラパラ漫画や、動きのある表現。

今回注目した使い方と実制作物です。2.0との同条件比較ではないため「以前は不可能だった」とは断定しません。画像間で形や位置がずれることはあります。

Flare & Sunburst



Flare

速さを重視。

画像の編集もできる。



Sunburst

細かい修正を重視。

境目まで丁寧に

仕上げたいときに。

Flareでも作れる。 **つながりの滑らかさまで詰めたい時は、Sunburstを試す。**

同じ画像・マスク・修正依頼で作った実比較。公式ではSunburstは精密な編集向け。少数の試行で、常に滑らかさが上回ると確かめたものではありません。

Sunburstを指定して使うなら、画像APIを使います。

Codex

いつもの画像生成
会話で「画像を作って」と頼む

APIにつないで生成
Sunburstなど、使うモデルを指定

```
gpt-image-2.5-sunburst
```

Codexの利用料とは、別料金です。　FlareもAPIで指定できます。

今回、SunburstはAPIから使用。Codex内蔵の画像生成が使うモデル名は、確認できていません。

前の画像を見せて、「この続きを」。

01 別々に作る　02 前の画像も見せる　**03 つなぐ場所まで決める**



「同じ雰囲気で」だけだと、
つなぎ目がズレやすい。

前の画像の一番下を、
次の画像の上に貼って渡す。

残す部分と、続きを描く部分を
分ける。



実際に渡した画像

画像のつなぎ方・検証結果を開く ↗

Sunburstでの実験。画像を作った後に、重ねてつなぐ処理もしています。旧モデルとの比較ではありません。

だから、画像をつないで長いLPにできる。

前の画像の続きになるように、
次の画像を作っています。

20 枚の画像をつないで、
このLPができました。



最初に見せたBENIのLP。20枚の画像をつないでいます。右下の拡大写真は、別のNAGIの実験です。

同じ見た目のまま、動きだけ変える。

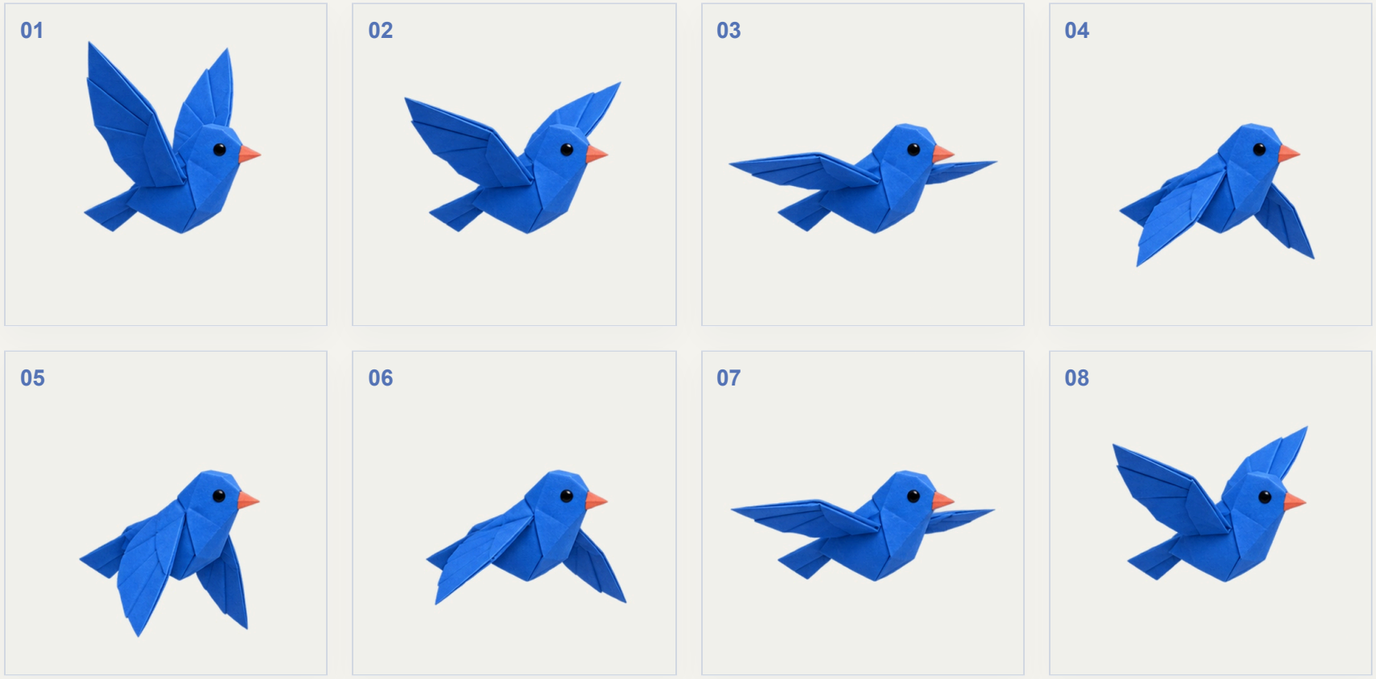
鳥の色・形・背景を揃えて、羽の位置を変える。



揃ったコマが作れると、**アニメーションの素材になる。**次は、動かしてみます。

今回の生成シートから3コマを表示。元絵を入力して3回生成した図ではありません。完全一致ではなく形・位置の揺れもあります。内蔵モデル名は未確認です。

8コマを順番に見せると、動きになる。



1枚ずつ、
鳥の羽の位置を変える。

順番に見せると、
羽ばたいて見えます。

Codex内蔵の画像生成で制作。
使われたモデル名は確認できていません。

1枚のシートに生成した8コマを切り出した実例。独立した8回の画像生成ではありません。内蔵モデル名が未確認のため、Sunburstの作例とは分けています。

Sunburstでも、画像代はこのくらい。

生成した画像44枚の「出力料金」だけの目安

約 246 円

LPに採用 **22** 枚 ／ 修正分も含めて **44** 枚

実際の請求額・LP制作の総額ではありません。

見本画像や指示文の入力料金、失敗分などは別です。
実際の利用量が未記録のため、正確な総額は不明です。

FlareとSunburstの単価は同じ。 **画像サイズなどで、1枚の料金は変わる。**　SENRAの制作レポート ↗



出力だけの参考計算：1,243token×44枚×$30/100万token×150円/$。画像サイズ等は仮定、実際のusageは未記録。単価は2026.09.10確認。

今日、何が変わった？

04

AstraとImage 2.5の変化。
だから、どんな仕事を任せやすくなるのか。

01　設定・頼み方
02　具体的な依頼と結果
03　Image 2.5
04　まとめ・質問

AstraとImage 2.5、それぞれの変化と具体的な仕事への使い方を振り返ります。

今日の要点　2つの変化が、仕事の任せ方を変える。

Astraは「任せ方」、Image 2.5は「画像の使い方」が広がる。

Astra

指示や見本の意図を、細かく反映。

古い設定を整え、必要な材料を渡す。

Image 2.5

続きを描く。見た目を揃えてコマを増やす。

長いLPや、動きのある表現へ。

だから、こんな仕事を任せやすくなる。

画面を操作する

LP・記事・資料を作って直す

動画・アニメーションを仕上げる

僕は、**普段はLunaの中。大きく難しい仕事はAstra。**

Astraの公式説明と本人の使用体験、実制作物のまとめです。モデルや設定だけで同じ成果が保証されるわけではなく、必要な道具・接続・確認も含みます。

設定を見直す。
見本を見せる。
短く頼む。

01 前に入れた、今は不要なルールを外す。

02 必要な資料やスクショだけを渡す。

03 「これを作って」「ここを直して」で始める。

配布ファイル

設定の見直しは、このファイルで。

セットアップファイル ↓

使い方のガイド ↗

設定を頼む文章をコピー

配布ファイルと使い方のガイドを、この資料と一緒に入れています。変更内容を確認してから使ってください。